

■特集■校正を考へる

仮名表記その他の校正例

田中薫

毎月の校正日、信綱先生遺愛の机も並ぶ佐佐木家の居間では、係それぞれが原稿やゲラと格闘しながら直向きに作業に取り組んでいる（積りである）。唯、限られた時間の中で誤植の見落とし等も時に起き、目標の完璧な校正には遠い現状……身が縮む。

そんななか僭越ではあるが、ゲラから気付く事と併せて選者が添削される前の原稿の問題点を示し、校正が必要となる具体例を挙げたい。それを参考の一つにして頂き、誤植を減らす事に繋げられれば有難く思う。

実際の校正作業を再現すると、まず初めに原稿とゲラを照合、この時は内容に気を取られないよう字面を追う事に徹し、あくまでも原稿に基づいて誤植を訂正する。

次の手順として、ゲラの素読みを行う。この作業では、作品の意味、文脈、韻律、音数等に齟齬や不自然さがなければを考えながら読み、前作業での見落としを見つける。

これらを段階的に、原稿に忠実にやっけていくが唯、誤植以外の明らかな誤記や事実誤認、語法の誤り等と判断できる場合には広辞苑・三省堂漢字表記辞典を基準とし、引用作品では原典に逐一あたり、連絡が付く限り作者に確認を取った上で直させて頂く。

ここでは、原稿を書かれる際に注意がほしい具体例（校正の都度、メモに書き残してきた中のごく一部の例ではあるが）について、項目ごとに挙げてみたい。

一、仮名遣いなどの表記

- ① 現代仮名遣い（新カナ）と歴史的仮名遣い（旧カナ）が混在している歌稿例。
 - ・「少しづつ老いゆく人と会うゆうべ」
新カナ選択の作者なので「ずつ」に訂正し、仮名遣いを統一。
 - ・「屋梁にゐたつばくらめらよ語るべし茂吉の母のいまわの際を」

旧カナ作者なので「いまは」に訂正。
・「地震津波原発の春を咲き初むる桜の下に寒く佇ちをり」

旧カナ作者なのでルビを「なぬ」に訂正。
② 促音・拗音の旧カナ表記の誤りの例。
旧カナでは促音「っ」、拗音の小字「ゃ」「ゅ」「ょ」も大きく書く決まりだが、小さく書いた歌稿が多数あり、全て訂正。

外来語などのカタカナ語も同様。
・「赤ちゃんの眠るやうに」↓「赤ちゃん」
・「しなふチューリップ」↓「チューリップ」

③ 同音異義語の旧カナの間違い。
（漢字に直してみると分かり易い。）
・「みんなみん蝉の声にききぬる」
「聞き入る」の意で旧カナでも「ききぬる」。

・「みんなみん蝉の声にききぬる」
「声を聞き居る」なら「ききぬる」。
・「母が居ます」↓○「ぬます」×「います」
「師が在す」↓○「います」×「ぬます」
（参考）